

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文脈	症例	通正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Eurosurveillance weekly release 2007; 12(1) 2007年 1月18日	英国で輸血と関係した新たなvCJD症例(4例目)が、最近 診断された。この症例は、献血17ヶ月後にvCJDを発症し たドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJD症状 を呈した。同じドナーからは3例目のvCJD患者にも輸血さ れていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒ トの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっ ている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、 血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告さ れていない。
165	2007/05/14	70164	バクスター	人血清アルブミン	人血清アル ブミン	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年 1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。こ の症例は献血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの 赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナ ーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例 目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニン ホモ体であった。まだ生存している。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	FDA/CBER 2006年 11月27日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製 剤(pdFVIII)の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を 作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよび フォンウィルブラント病患者に使用されるpdFVIII製剤の、 vCJD感染リスクは非常に低いと示唆された。製造工程での原因物質除去レベル により、vCJD感染リスクは大きく変動する。
166	2007/05/14	70165	バクスター	人血清アルブミン	ヘパリンナト リウム	ブタ腸	中国	製造工程	無	無	無			
167	2007/05/14	70166	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	ヘパリンナト リウム	ブタ腸	該当なし	添加物	無	無	無			
168	2007/05/14	70167	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	乾燥人血液 凝固第VIII因 子阻害物質 補正活性複 合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年 1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。こ の症例は献血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの 赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナ ーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例 目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニン ホモ体であった。まだ生存している。